

豊かさ 見つめ直そう

武内和彦 国連大副学長 対談 歌手 MISIAさん



山田由博撮影

たけうちかずひこ 和歌山県出身。08年から現職。国連大学サステイナビリティと平和研究所所長、東京大学大学院農学生命科学研究科教授などを併任。専門は緑地環境学など。

ミーシャ 長崎県出身。98年のデビュー以来、歌唱力に定評があり、国内外で人気を博している。近年のアフリカにおける子供の教育支援活動などが評価され、COP10名誉大使に就任した。

「知識」と「意識」が大事

身近な生活に解決策

ません。人間が自然と折り合いをつけて生きていくが大切です。
ツシマヤマネコは、「里山」という入里と森が重なり合う地域に生息していました。
農村の過疎化で人手が減ると機械による田畑の整備が行われず、一方で手入れしない森林が増えています。人間寄りの空間と放置された自然の両極端になり、中間で生きていた生物の行き場が失われます。重要なのは絶滅危惧種を残すだけでなく、それが生き残れる環境にするよう、人と自然のかわりを良くして「共生」です。



③モンテベルデの自然保護林—コスタリカで昨年11月
④エダサンゴに群れるデバスズメダイ
—沖縄県東恩味村で07年3月
いずれも須田川理輝撮影

里山問題の背景には食料など生活物資の多くが輸入に頼っている点があります。輸出国の生態系を壊して豊かな生活を享受する一方、国内の森林や田畑を放置している。

華すると同時にイペリを豚を飼い、トウモロコシを育てて良質の肉を生産しています。品質も高い。大事なのは我々が自然から持続的に恵みを得るのかわりに、食料を一時に安く

た。企業や市民に議論の場に参加してもらっても大きな課題です。里山も生物多様性をもっと広く伝えたい。
MISIA 人は幸せになるために歌うと思えます。歌は伝える力もあります。アフリカの人々が歴史を歌い継いできたように、私も歌で人の伝統の中に生き続けるメッセージを伝えたい。生物多様性を身近に考えるきっかけを作りたいです。夏からの全国ツアーで、国連大と協力して学んだことを伝えたいと思っています。また「SATOYAMA BASKET」(http://www.misia.jp/satoyama)のサイトを設置し、対馬のことなども紹介していきます。大事なことは「知識」と「意識」です。
武内 生物多様性の問題を解決する鍵は身近な生活の中にあります。アマンの森や生物が失われるのを見て、「かわいそう」と思うだけでなく、「これからはへきかを考えてほしい。COP10では主に20年までの目標を議論します。これからの10年で我々が意識と行動を変えれば生態系も里山もよみがえりますはず。」「構成・嗣後では大塚あ

生物多様性を保つことは、貴重な野生生物を存続させるだけでなく、食料の供給など私たちの生活に深く関与している。国連生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)名誉大使で歌手のMISIAさんと、生物多様性研究の第一人者である武内和彦・国連大学副学長は、国内外の状況を自分の目で確かめてきたその経験を踏まえ、語り合った。司会中井和久・毎日新聞東京科学環境部長が務めた。

MISIAさんはアフリカの子供たちを支援する活動を続けています。
ケニアに
工場排水が原因で魚が取れなくなることもあったと知りまし

豊かになろうとして結果的に貧困を招く現実。深刻な問題と環境問題は深くつながっているのだ。もし生物多様性に配慮した開発ならば、共生の道があったかもしれない。そう思うから私も生物多様性を考えたいと思

い、名誉大使を引き受けた。今月、幼少期を過ごした長崎県対馬を訪れました。ここではツシマヤマネコが100匹前後に減っているだけ。自然豊かに見えるだけに驚きました。でも地元も自然を壊したいわけではあり

日のおよむ先進国が途上の資源に依存しているという「ひずみ」が大きな問題です。
海外にも里山の概念はありますか。
スペインのカシ

大量に入手する方法を探るのか、という問題なのです。
MISIA 貧困問題を考える時、何が人間にとって幸せなのかを問うかかられるのですが、生物多様性も同じです。我々は近代化で

理由の一つは、明確な施策につながる目標がなかったことです。例えば水質などはごまかして明示すれば技術開発が進む。また、人間の経済活動と生物多様性の関係も切り離して考え

国連大学が2015年後一時半から、東京都豊台区の国連大本部で、里山・里海をテーマにしたシンポジウムを開催する。